



『北の森の達人』

読者の皆様へ

あけましておめでとうございます。
 昨年に引き続き、本年も林業試験場およびメールマガジン「北の森の達人」をよろしく
 お願いいたします。

北海道立林業試験場メールマガジン『北の森の達人』は、北海道の森林・林業・身近な
 みどりに関わる情報を皆様に直接お届けするメールマガジンです。

目次

■刊行物ダイジェスト	光珠内季報 No.157
	グリーントピックス No.42
■ホームページの紹介	パンフレットの紹介
■森とみどりのQ & Aで解決!	ドングリの播き方
■今日の達人のささやき	企画指導部企画課 長坂晶子

■刊行物ダイジェスト1 光珠内季報 No.157 (2009.12発行)

- ◇クリーンラーチのタネをたくさん採るために
 (林業経営部 内山和子)
 クリーンラーチの母樹を対象に、訓子府採種園で薬剤散布および枝スコアリングの着
 花促進処理を5月下旬と6月中旬の2回行い、翌年5月に雌花数を数える試験を3年繰り返
 した。雌花数は、枝スコアリング処理で増加したが、効果の大きかった処理時期は年
 によって違っていた。
- ◇街路樹における傷被害の実態と課題
 (緑化樹センター 野中俊一)
 市街地に植栽された街路樹の傷被害実態を目視により調査した。街路樹の9割には外
 傷があり、その主な原因は除排雪、草刈、剪定などの維持管理作業であることから、適
 切な管理が必要と考えられた。
- ◇野ネズミによるドングリの持ち去り試験～動物散布による人工林の混交林化に向けて～
 (道南支場 南野一博・明石信廣・今博計)
 動物散布による人工林の混交林化の可能性を検討するため、天然林とトドマツ人工林
 の境界部にドングリを配置し、野ネズミによるドングリの持ち去り試験を行った。その
 結果、トドマツ人工林では、エゾアカネズミの生息数が少ないにもかかわらず、天然林
 と同様にドングリが散布されることが示唆され、天然林と隣接している人工林では、エ
 ゾアカネズミによるドングリの散布が期待できると考えられた。

<-刊行物詳細情報->
<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/kiho/kihoh21.htm>

■刊行物ダイジェスト2 グリーントピックス No.42 (2009.12発行)

- ◇街路樹にとって受難の季節となりました
 街路樹の障害実態を調査したところ、調査木の9割に外傷があり、その主な原因は除
 排雪、草刈り、剪定などの維持管理作業でした。除排雪に当たっては街路樹を傷つけな
 いよう十分配慮した作業を行う必要があります。
- ◇河畔林がまもるサクラマスの子息環境-夏の最高水温を予測する-
 夏に水温観測を行い、夏期最高水温推定モデルの作成を試みたところ、河畔林の有無
 だけでなく、地質の違いや、森林に覆われた支流の流入などの条件を考慮すると、地域
 性を反映した水温の予測ができることがわかりました。
- ◇清流の住人「カワシンジュガイ」を知っていますか?
 林業試験場では、カワシンジュガイの生息環境について全道各地でアンケート調査を
 実施するなど実態把握を行っています。こうした調査を踏まえ、環境の変化がカワシン
 ジュガイの生息に与える影響についてさらに研究を進め、身近な川の保全・再生に活か
 していきたいと考えています。
- ◇ブナ種子10年間の貯蔵に成功!
 日本の様々な場所で、苗木を植えてブナ林を再生する取り組みが行われています。
 1997年から道南支場で開始したブナ種子貯蔵試験の結果、最長10年間の保存ができるこ
 とが明らかになりました。

<-刊行物詳細情報-> <http://www.fri.hro.or.jp/kanko/topics/topicsh16.htm>

■ホームページの紹介・・・パンフレットの紹介

林業試験場では、研究の成果をまとめたいろいろなパンフレットを作成していますので、どうぞご利用ください。

- ◇「種苗の品種にこだわる時代がやってきた」
林業試験場で開発されたグイマツ雑種F1の優良な品種についてまとめました。
- ◇「自然災害の早期把握に貢献できるリモートセンシング技術」
自然災害において早期に被害把握を行うためのリモートセンシング技術の活用についてまとめました。
- ◇「使ってみよう 北海道に自生するツル性木本」
壁面の緑化に使用可能な、北海道に自生するツル性木本についてまとめました。
- ◇「生き物の生息に配慮した河畔環境の再生」
河川地形と河畔林をセットで再生するための方法を、事例を交えて紹介しています。

<パンフレットの紹介>

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/fukyu/pamph.htm>

■森とみどりのQ&Aで解決!・・・ドングリの播き方

【Q1】山で拾ったドングリを畑で苗木を育てて山に植えたいが、いつ頃播けば良いか？

【A1】ミズナラの堅果（ドングリ）は取り扱いを誤ると乾燥して発芽能力を失ったり、逆に室内や冷蔵庫の中で簡単に発芽してしまったりするので、秋に採種・精選した後、すぐに畑にまきつけるのが最良です。
苗畑の準備が間に合わなかったり、播種時期を逸したような場合には、翌春の播種時期まで堅果を貯蔵しておく必要があります。

【Q2】ミズナラの堅果（ドングリ）の貯蔵方法を教えてください。

【A2】ミズナラの堅果を貯蔵するためのポイントは次の4点です。

1. 貯蔵中の乾燥の防止（含水率40%を下回ると発芽率が極端に低下します。）
2. 過度の低温の防止（-3℃より低い温度は危険と考えられます。）
3. 発芽の抑制（ミズナラの幼根の伸長量は2℃以下ではかなり抑制されます。）
4. 大きく良質な堅果の使用（貯蔵中の養分の消耗、虫害による発芽阻害を避けるためです。）

最も簡便な貯蔵方法は土中貯蔵です。良好な条件で貯蔵できれば70%以上の高い発芽率を翌春まで維持できます。土中貯蔵の方法や留意点はつぎのような点です。

1. 精選の終わった堅果を網製の袋に入れ、ビニールシートで包んで地中に埋める。
2. 埋める場所は、雨水や雪解け水の貯まらない排水良好地で、直射日光や放射冷却による温度変化の少ない場所が望ましい。緩傾斜の林内などはこれらの条件を満たす好適地であろう。
3. 埋める位置は深さ10～30cm程度がよい。浅すぎると、寡雪寒冷地では低温による死亡やネズミ類による食害の危険がある。

<-森とみどりのQ&A詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/q&a/search.asp>

■今日の達人のささやき・・・企画指導部企画課 長坂晶子

カワシンジュガイ（川真珠貝）－「真珠」という響きがロマンをかき立てる、不思議な生き物です。アイヌ語では「ピパ」。北海道内には、美馬牛（びばうし：ピパ・ウシ＝カワシンジュガイ・多い所）、美生（びせい→ピパイロの読みが変化）など、ピパ由来地名が各地に点在しており、その貝殻が農具として利用されるなど、アイヌの人々にとって身近な生き物であったと考えられます。林業試験場がある美唄（びばい）もピパ由来地名のひとつです。森の住人でもあるヤマメと、生活史にヤマメが必要なカワシンジュガイ。「カワシンジュガイを育む森づくり」なんて、北海道らしいと思いませんか？

//////////

■発行・編集

北海道立林業試験場
〒079-0198 北海道美唄市光珠内町東山

■問い合わせ

企画指導部森林情報室主査（情報管理）
電子メール mmgadmin@hfri.pref.hokkaido.jp

■記事の取り扱い

北海道立林業試験場メールマガジンに掲載された記事を転載することは
ご遠慮ください。

////////////////////